

報道関係者各位

2018年1月19日

慶應義塾大学 SFC 研究所
能代市

能代市と慶應義塾大学 SFC 研究所 「地域おこしに関する研究開発の連携協力に係る覚書」を締結

—連携協力事業の第一弾として、「バスケの街づくり」などの地域資源を活用した、
まちを元気にする実学に挑戦する「地域おこし研究員」を募集します—

能代市(市長：齊藤滋宣)と慶應義塾大学 SFC 研究所(所長：田中浩也。以下、慶應 SFC) は、2018年1月23日、緊密な連携のもと、相互に協力することにより、**未来社会を先導する人材育成、活力ある地域社会の形成と、実学の推進**に寄与することを目的とする、「**地域おこしに関する研究開発の連携協力に係る覚書**」を締結します。また、同日に能代市にて、能代市長の齊藤滋宣と慶應 SFC 代表として、総合政策学部教授 玉村雅敏による調印式を行います。

能代市と慶應 SFC は、**2010年度より8年間、「バスケの街づくり」を中心に、その推進計画の策定や、計画に基づいた事業やまちづくりの推進など、各種の実践や調査研究を協働で取り組んできました。**その実績をもとに、覚書を締結し、より緊密な連携のもと、協働で取り組む活動を充実させていきます。

連携協力事業の第一弾として、能代市の「バスケの街づくり」などの地域資源を活用した、まちを元気にする実学に挑戦する「**地域おこし研究員**」を募集します*。「地域おこし研究員」は、能代市に在住し、慶應 SFC の助言・指導を受けながら、能代市の地域おこしに貢献する研究・開発・実践に挑戦することを想定しています。(※ 能代市「地域おこし研究員」の任用・就任は、能代市での諸条件が整った後となります)

【能代市と慶應 SFC による「地域おこしに関する研究開発の連携協力に係る覚書」について】

1. 概要

(目的)

慶應 SFC に設置する社会イノベーション・ラボ(代表：総合政策学部教授 玉村雅敏)と、能代市の緊密な連携のもと、相互に協力することにより、**未来社会を先導する人材の育成、活力ある地域社会の形成と、実学の推進**に寄与することを目的とします。

(連携協力事項)

能代市と SFC 研究所は、前項の目的を達成するために、次の事項について連携し、協力をします。

- (1) 能代市における地域おこしに関わる研究開発に関すること
- (2) 地域おこしや社会イノベーションを担う人材育成に関すること
- (3) 両者の知的、人的及び物的資源の活用に関すること
- (4) その他、本覚書の目的を達成するために必要な事項

2. 覚書調印式

日時： 2018年1月23日(火) 11時～ ※ 調印式の後、取材をお受けします。

場所： 能代市役所 本庁舎3階 会議室9・10 (秋田県能代市上町1番3号)

出席者： 能代市 齊藤滋宣(能代市長)

(予定) 鈴木一真(能代市副市長)

慶應 SFC 玉村雅敏(総合政策学部教授)

岩月基洋(SFC 研究所上席所員、

社会イノベーション・ラボ「能代市バスケの街づくり」担当) ほか

(参考1) 能代市の「まちづくり」と慶應 SFC との連携協力

能代市は、秋田県北西部に位置し、世界自然遺産「白神山地」を望み、日本五大松原に数えられる「風の松原」、内陸南部には高さ58メートルの「日本一高い天然秋田杉」を有する、自然に囲まれた地域です。市の中央部を東西に流れる「米代川」は、過去には天然秋田杉の筏流しが行われ、「木都能代」の歴史を支えてきました。春は県立自然公園きみまち阪や能代公園の桜、夏は役七夕、天空の不夜城、能代の

花火、秋は黄金色に輝く水田、冬は積雪1メートルを超える地域もあり、四季ごとに違った楽しみ方、違った表情があります。しかしながら、地方の多くの市町村と同様、都市部への人口流出や、少子高齢化などによる人口減少が進んでおります。そうしたなか、市では地域資源を活用した取り組みとして、高校バスケットボールの強豪校「能代工業高校」の知名度を活かした「バスケの街づくり」やJAXAの能代ロケット実験場や、中学生から大学生が集まって開催される「能代宇宙イベント」を中心とした「宇宙のまちづくり」といった、多様な顔を持ったまちづくりを推進しています。

能代市と慶應SFCは、これまでバスケの街づくり推進計画の策定の監修や、バスケの街づくり推進委員会を中心とした計画に基づいた事業の推進、バスケの街市民チャレンジ事業助成制度の設計、学生によるスタディツアーを実施し、バスケの街づくりを推進するための政策提案を行うなど活動に取り組んで参りました。

今後、連携協力して取り組む研究開発テーマとしては、例えば「バスケミュージアムを拠点とした『バスケの聖地能代』を実現するバスケロードやバスケの殿堂のあり方」や「スポーツを活用したまちづくりと観光事業促進に向けたイベントツーリズムの開発」、「能代宇宙イベントを活用した、大学生の交流を促す実践的イベント」、「地域イベントの運営を活性化させるボランティアマネジメントの取り組み」などが想定されます。

（参考2）「地域おこし研究员」とは？

慶應SFC社会イノベーション・ラボ・長島町（鹿児島県）・神石高原町（広島県）・三条市（新潟県）・釜石市（岩手県）・鹿児島相互信用金庫（鹿児島県）・大山町（鳥取県）等が共同で提唱・検討・推進をしているもので、総務省「地域おこし協力隊」や「復興支援員」の制度、自治体・企業・団体の独自制度等を活用し、地域の現場で実践的な研究活動を行うSFCの大学院生（進学希望者を含む）等を対象に、自治体・企業・団体の選考により任用されるものです。（※自治体等の選考と、大学院の入学試験は連動しません）

「地域おこし研究员」は、SFCからの遠隔と対面での研究指導・支援のもと、地域に新機軸を実現するテーマを設定して活動するもので、地方創生の実学を推進しながら、地域が抱える課題を、多様な主体の協働や連携を実現することで、共に解決することを目指します。

SFCでは、大学院政策・メディア研究科（社会イノベータコース）にて、遠隔と対面の助言や研究指導を行い、実践的な研究成果を達成できるように支援します。また、各種の講義や演習をEラーニングやビデオ会議のシステムを用いて、遠隔受講できるようにすることや、現地での実践的な研究活動を行いながら学ぶからこそ、効果的に学習できる授業設計を行っています。

2018年1月の時点で、長島町・神石高原町・三条市にて、3名の「地域おこし研究员」が任用され、活動をしています。

「地域おこし研究员」の実践紹介や募集・任用に関する詳細は、慶應SFC「地域おこし研究员」Webサイトや、説明会（1/30（火）18：30より慶應義塾大学三田キャンパスで開催）にてお知らせします。

参考：「地域おこし研究员」Webサイト（<http://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/>）

参考：「地域おこし研究员」第4回説明会・個別相談会（<http://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/news/024/>）

（参考3）「地域おこし研究员」を募集する自治体・企業・団体（2018年1月19日現在）

自治体・企業・団体	研究テーマ（例）
長島町（鹿児島県）	「地域商社プロジェクト」「食×地方創生」など
神石高原町（広島県）	「神石高原町の地方創生のための高校魅力化+（プラス）プロジェクト」など
三条市（新潟県）	「三条市スポーツまちづくり×ものづくりプロジェクト」「スポーツまちづくり」など
釜石市（岩手県）	復興まちづくりとラグビーワールドカップ開催を活かした、「オープンシティ釜石」と「社会イノベーション」を加速させる研究開発
鹿児島相互信用金庫	実践型研究所「そうしん地域おこし研究所」を拠点に「地域おこし×CSV」の研究開発
大山町（鳥取県）	（準備中）

【本件に関する問い合わせ先】

- 能代市 企画部総合政策課（担当：加賀谷） 電話：0185-89-2142
- 慶應義塾大学 SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ（担当：菅井・稲垣・岩月）
電話：03-4590-0444、E-Mail：si-lab@sfc.keio.ac.jp
（慶應義塾大学における配信元：慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当
E-Mail： kri-pr@sfc.keio.ac.jp TEL：0466-49-3436 FAX：0466-49-3594）